

第 45 回全国豊かな海づくり大会大阪府実行委員会第 4 回総会
議事要旨

【開催日時】令和 7 年 8 月 7 日（木） 16 時～17 時

【場 所】マイドームおおさか 3 階展示ホール（E）

【出席者】出席者名簿のとおり

〔議決権のある委員の出欠状況〕
出席：39 名（ 本人 18 名、代理 9 名／ 本人 4 名、代理 8 名）
欠席：1 名

【内 容】

1 議事

(1) 第 1 号議案

第 45 回全国豊かな海づくり大会大阪府実行委員会会則改正について
資料 1-1 及び資料 1-2 について事務局から説明し、原案どおり承認された。

〔主な決定事項〕

・第 45 回全国豊かな海づくり大会大阪府実行委員会会則の改正（施行日 R7.8.7）

(2) 第 2 号議案 1 年前プレイベントの企画書について

資料 2-1 について事務局から説明し、原案どおり承認された。

〔主な決定事項〕

・1 年前プレイベントの出席者、内容および関連イベント・協賛行事等の概要

(3) 第 3 号議案 令和 8 年大会本番の運営方針について

資料 3-1 について事務局から説明し、原案どおり承認された。

〔主な決定事項〕

・式典行事、海上歓迎・放流行事のプログラムや関連行事計画を含む本大会の
運営方針

2 機運醸成の取組みについて

〔発表〕

① 「地域と連携した大阪湾の環境改善および活性化の取組み」

関西エアポート株式会社 地域環境部 西野部長

- ・会社としての藻場再生の取組みに加え、阪南市との連携プロジェクトにて関空の海藻移植および海域環境の向上に向けた次世代への教育を実施。
- ・J ブルークレジット認証取得。CO2 吸収源としての藻場育成により地球温暖化対策に貢献。
- ・4 月、5 月に阪南市と大阪・関西万博へ共同出展。大阪湾海の森再生プロジェクトを紹介。
- ・NPO 法人大阪府海域美化安全協会では、ごみ回収事業等により美しく安全な大阪府海域の実現を図っている。
- ・昨年より関西国際空港の環境保全の取組み紹介等を行うイベントを開催。

② 「豊かな海へ ―森の現場から―」

大阪府森林組合 栗本代表理事組合長

- ・森に落ちた葉や枝が森林土壌になる過程で生成されるフルボ酸鉄を、海洋中のプランクトンや海藻が吸収し、成長するというように森と海には深いつながりがあり、漁業関係者や企業と連携し豊かな森づくり活動を実施。
- ・森林の土砂災害抑制のための府森林環境税事業は、豊かな海づくりに貢献。

③ 「大阪の都市緑化 ―山林・里山・河川・海 自然循環―」

公益財団法人 大阪観光局 溝畑理事長

- ・森林面積や生態数の減少等、生態系が深刻な状況にあることから、山と海セットでの自然循環の保全が急務。
- ・自身が副会長を務める日本みどりのプロジェクト推進協議会として生物多様性の保全等に取り組んでおり、本大会は重要な大会と位置づけている。
- ・大阪の都市緑化や食文化の強み等を活かし、本大会の開催に向け、グルメ、スポーツアクティビティ、環境エコ活動等様々な分野の方々と共にオール大阪で進めていきたい。

〔取組みのご紹介〕

○ 石井委員 ((地独)大阪府環境農林水産総合研究所理事長)

- ・お手渡し魚の育成を担う。現在アマモ、ガザミ、アカガイ等を育成中。
- ・府内各地で実施している大会記念リレー放流の放流魚を育成する(公財)大阪府漁業振興基金へ生産に係る技術的な支援を行っている。
- ・ヒラメの稚魚の放流等栽培漁業の体験ができる夏休み子ども体験「海の教室」

に加え、各種イベントを通じ豊かな海づくりの取り組みやその意義を紹介し、府民への環境保全への意識醸成に取り組む。

○ 上甲委員（阪南市長）

- ・2019年のG20大阪サミットの配偶者プログラムにて子どもたちが海の保全活動を発表、それ以降市内全小学校、全学年でアマモ藻場の育成活動等の環境・海洋をテーマとした海洋教育パイオニアスクールプログラムを実施。また小学校卒業後も海洋教育に関する専門的内容が体験できる阪南海の学校プロジェクトを実施。
- ・また地元の漁業協同組合をはじめとした多様な団体とともに各種大阪湾の保全、再生、次世代への継承に向け、市を上げて取り組んでいる。

○永藤委員（堺市長）

- ・大阪イコール魚というイメージを府民へ周知するためにも、「魚庭の海づくり井」の取り組みは非常に良い。機運醸成の取り組みとして、各自治体で海鮮を扱う飲食店へ協力いただき井を提供する等の取り組みをぜひ検討していただきたい。

○宮本委員（大阪海上保安監部長）

- ・日本は四面を海で囲まれた海洋立国で、海から様々な恩恵を受けながら発展してきた国であるにも関わらず、そのことを理解している国民が非常に少ない、特に都会地になるほどその傾向が強いと感じている。1人でも多くの国民、特にこれからの日本を背負って立つ子どもたちにもっと海に関心を持って貰いたい。今年は万博、来年は本大会と2年連続で臨海部において大きなイベントが開催されるので、これを契機に海から遠く離れた内陸部の府民にも本大会の啓発や周知活動をお願いしたい。

○下條委員（（公財）地球環境センター理事長）

- ・地球環境センターは、大阪府市が花博開催時に国連のUNEPという地球環境計画の組織を誘致し、SDGsや地球環境保全に取り組んでいる。現在、UNEPは海洋プラスチックに非常に注目しており、若者を対象とした様々なイベント等を通じ、廃棄プラスチックのアップサイクル等を実施。
- ・大阪・関西万博にてごみ再生や海洋プラスチックをテーマとしたイベント開催を予定。
- ・本大会を契機にこのような運動を広げていきたい。

〔大会に向けたメッセージ〕

○岡副会長（大阪府漁業協同組合連合会代表理事長）

- ・大阪府で初めてとなる全国豊かな海づくり大会の開催は、漁業者の長年の願い。
- ・各団体の取り組みや考えを聞き、機運の高まりを実感。
- ・本大会が大阪らしく、そして全国の方々の記憶に残る大会となるよう、海上歓迎行事等に尽力したい。
- ・府内 24 漁協、総数 1400～1500 人の仲間が海づくり大会に向けて頑張り、期待していることは大変喜ばしい。かつて面積あたり日本 1 の漁獲量を誇った宝の海、大阪湾の水産資源を回復させ、大阪産魚介類の美味しさを知ってもらえるよう大会の成功に向け努めたい。

○佐野副会長（岸和田市長）

- ・食の都・大阪の魅力発信として、食材としての需要が少ない黒鯛を地域が誇る魚へと変貌させたいとの思いから岸和田黒鯛プロジェクトを実施しており、今年 7 月に水産庁が立ち上げた「クロダイの美味しさ認知向上プロジェクト」に市町村で唯一参画。情報交換会にて、黒鯛の取り組み紹介に加え、本大会の PR を行った。
- ・市では地域資源の価値や魅力を生かした水産業の振興、魚食教育の推進等に加え、とりわけデジタル技術を活用した業務の効率化データに基づく科学的な意思決定の実現、そして海業を通じた新たな価値を創造する岸和田市デジタル水産業推進事業に関係団体と着手しており、大会本番では、経済の発展による都市の成長と豊かな海づくりを両立する全国の沿岸漁業モデルとして、この取り組みを発信したい。

○千代松副会長（泉佐野市長）

- ・府内で漁港として当初整備された食品コンビナートエリアを含めると、府内で一番大きな漁港を持つ。平成 30 年に開催した全国漁港漁場大会にて全国の漁港関係者、漁業関係者を迎えたが、本大会においても万全な準備で臨みたい。
- ・府内の漁獲量は 1982 年の約 11 万 4 千 t をピークに年々減少傾向のため、作り育てる漁業がより重要となってくると考えており、漁協と連携した抱卵ガザミ放流事業を実施。
- ・本大会を契機として、大阪湾における水質改善に加え、水産資源の維持増大や、多くの漁協および漁場の環境保全につなげたい。

〔結びの挨拶〕

○吉村会長（大阪府知事）

- ・来年はいよいよ大阪で初めての全国豊かな海づくり大会の開催となる。大阪の

豊かな海、素晴らしい海を次世代につなげていくため、皆さんと協力し素晴らしい大会となるよう、よろしくお願いします。

以上